

## 54 Mixed phenotype acute leukemia-T/B (MPAL-T/B) の 1 症例

1日目  
第6会場

## 55 センシンレン（ハーブ）抽出液による白血病細胞株での抗腫瘍効果について

秋山秀彦<sup>1</sup>, 勝田逸郎<sup>1</sup>, 鈴木一春<sup>2</sup>, 谷口利幸<sup>2</sup>藤田保健衛生大学医療科学部臨床検査学科<sup>1</sup>, 健康免疫研究所<sup>2</sup>

**【目的】**センシンレン (*Andrographis Paniculata*) は東南アジアで病気治療に使用してきたハーブであり、多くの薬理作用が報告されており、その主成分はアンドログラフォリドである。今回、健康食品として販売されている AGP センシンレンのエタノール抽出液添加による白血病細胞株での抗腫瘍効果を検討した。**【方法】**AGP センシンレン粉末をエタノールに溶解し、遠心器で 10,000rpm、1 分遠心後の上清を使用した。その添加濃度は、0.5mg/mL および 1.0mg/mL の 2 濃度を行った。白血病細胞株はヒト由来の U937 (急性単球性白血病細胞株), HL60 (急性前骨髄球性白血病細胞株), K562 (慢性骨髄性白血病・急性転化細胞株), Jurkat (T リンパ芽球性白血病細胞株), H929 (多発性骨髄腫細胞株; IgA) を使用した。陽性対照の抗がん剤として、代謝拮抗剤であるシタラビンと微小管重合阻害剤であるビンクリスチシンを使用した。抗腫瘍効果の測定は、Annexin V-FITC キットで測定した。さらに、細胞の形態学的变化、アポトーシス実因⼦である caspase-3 の測定、細胞周期の解析などを行った。**【成績】**センシンレン添加（濃度：1.0mg/mL）24 時間後の Annexin V 陽性率は、U937 (48.2%), HL60 (53.8%), K562 (30.7%), Jurkat (86.3%), H929 (99.0%) であった（無添加時では全ての細胞株で 1.6~7.2%）。アポトーシスの実行因⼦である caspase-3 活性の無添加に対する増加率は、センシンレン添加（濃度：1.0mg/mL）24 時間後では、U937 (2.9), HL60 (2.4), K562 (1.8), Jurkat (3.2), H929 (2.4) であった。形態学的变化は、抗がん剤添加後と同様に細胞の縮小化と核の断片化が認められた。細胞周期の解析では、センシンレン添加後、G1 期の増加と S 期の低下が認められた。**【結論】**セレンシンの抗腫瘍効果は、今回使用した白血病細胞株のすべてに認められ、その作用はアポトーシスであることが示唆された。特に、リンパ球系の細胞株である Jurkat および H929 で高い抗腫瘍効果が認められた。